

障害のある人が身近な地域で安心して暮らせる環境を整備します

予算額 589,746千円

1 障害者施設設置費補助金 457,335千円

障害のある人が身近な地域で暮らすことができるよう共同生活援助事業所（グループホーム）や障害児者施設の整備費に対して助成します。

2 障害者相談支援体制整備事業費 32,365千円

○地域の相談支援体制構築に向けた広域支援

障害者の相談支援に関する助言・支援を行うため、市町村や自立支援協議会等にアドバイザーを派遣します。

○地域連携推進会議※の運営に対する支援（新規）

共同生活援助事業所（グループホーム）等に設置が義務付けられた地域連携推進会議の効果的な運営に向けて、アドバイザーによる助言・支援を行います。

※利用者家族や地域住民等が構成員となり、外部の目を取り入れた入所施設の評価を行うための会議

3 障害者施設介護テクノロジー導入支援事業費補助金

62,400千円

障害福祉現場の職員の業務負担軽減や職場環境の改善及び障害福祉サービスの質の向上を図るため、介護ロボットやICT機器の導入に要する経費を助成します。

4 障害者地域移行推進事業費 20,018千円

○共同生活援助事業所の世話人の確保

共同生活援助事業所（グループホーム）の世話人確保のため、世話人の仕事紹介や仕事体験を実施します。

○地域生活を体験する機会の提供

施設入所者等が地域生活を具体的にイメージできるよう、地域の共同生活援助事業所（グループホーム）等を活用した体験事業や出前講座を実施します。

○障害者の新たな仕事の創出

障害者の工賃等の向上や雇用促進のため、企業と就労継続支援事業所等のマッチングや企業と芸術的な才能のある障害者のマッチングを行います。

5 発達障害者支援対策事業費 17,628千円

○発達障害者支援に向けた体制強化

発達障害のある子どもの子育て経験者であるペアレントメンターの養成活用等により、市町村の支援体制整備の強化を図ります。

○強度行動障害のある人とその家族に対する支援体制の整備（新規）

強度行動障害のある人とその家族の現状や課題を把握するための実態調査及び、専門性を有するアドバイザーによる事業所への伴走型訪問支援や市町村・事業所職員向け研修等を実施します。

障害のある人の社会参加と障害への理解促進を図ります

予算額 50,073千円

1 障害者コミュニケーション手段利用促進費

34,674千円

◆意思疎通支援者の養成・派遣

障害のある人が社会の構成員として地域の中で安心して生活を送ることができるよう、意思疎通支援者の養成や派遣を行います。

- ・手話通訳者や要約筆記者等の意思疎通支援者の養成・派遣
- ・頸肩腕障害予防のための健康診断や健康管理講座の実施

◆障害の特性に応じたコミュニケーション手段に関する普及啓発

障害に対する理解や配慮について普及啓発を図るため、障害の特性に応じたコミュニケーション手段に関するセミナーを開催するとともに、カラーユニバーサルデザインに関する出前講座を実施します。

2 ヘルプマーク普及促進事業費

529千円

◆ヘルプマークの普及促進

義足や人工関節を使用している人等、援助や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい人々が、配慮を必要としていることを周囲の方に知らせるための手段となる「ヘルプマーク」の普及を促進します。

- ・普及啓発リーフレット等の作成、配布
- ・市町村と連携したヘルプマークの作成、配布



ヘルプマーク

3 障害者芸術文化活動推進事業費

14,870千円

◆あいちアール・ブリュットの推進

「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」を通して、障害のある人の社会参加と障害への理解促進を図ります。

- ・作品展や舞台・ステージ発表の開催
- ・芸術系大学の教員等が障害者支援施設・事業所を訪問し、造形活動を実施する出前講座を実施
- ・三河地域におけるサテライト展の開催
- ・県内3芸術大学との協定に基づく連携事業の実施



ロゴマーク

◆障害者の芸術活動を支援する人材の育成

障害者芸術文化活動の普及を図るため、相談支援や人材育成、情報発信等により、障害のある人の芸術文化活動に携わる施設職員等を支援・育成します。



秋本慎ノ介「サバンナに生きる（ライオン）」



AICHI ART BRUT
あいちアール・ブリュットとは
愛知県内の障害のある方の芸術・文化活動を通じて、障害のある人の社会参加を促進し、それにより社会全体の障害への理解が深まることで、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

中小企業の人材確保を支援します

予算額 254,272千円

経済社会活動の回復に伴い、中小企業の人手不足感が高まっているため、若者、中高年齢者、外国人、障害者など多様な人材の確保に向けた取組を推進します。

○中小企業人材確保事業費 55,779千円

- ・従業員の奨学金返還を支援する中小企業等に対し、奨学金返還のための手当又は代理返還した額の一部を補助※
(※補助率 1/2 以内、対象従業員 1 人あたり上限 20 万円/年、採用年度から最大 3 年間まで)
- ・人手不足が顕著な業種の中小企業等を対象に、業界・自社の魅力を洗い出し、採用活動のポイントを習得する採用支援セミナーの開催
- ・本格的な就活を始める前の学生等を対象に、人手不足業界・企業の魅力を伝えるオンライン交流会の開催
- ・学生や離転職者等と人手不足業界・企業とのマッチングを支援する 1 日職場体験や合同企業説明会の開催

○若年者雇用促進対策費 43,020千円

- ・あいち若者職業支援センター（ヤング・ジョブ・あいち）の運営
- ・中小企業経営者と学生との交流会の開催
- ・大学との間で締結した協定に基づく就職支援

○中高年齢者雇用促進対策費 4,769千円

- ・企業向け高年齢者雇用セミナーの開催
- ・高年齢者向け合同企業説明会の開催
- ・中高年齢者向け再就職支援セミナーの開催
- ・専用ポータルサイトによる情報発信

○外国人材確保支援事業費（新規） 77,955千円

- ・企業・外国人双方からの相談に対応した窓口の設置・運営
- ・中小企業を対象とした伴走型支援やセミナー等の実施
- ・海外の人材を対象にオンライン合同企業説明会等の開催

○障害者就労支援事業費 31,649千円

- ・あいち障害者雇用総合サポートデスクの運営

○中小企業応援障害者雇用奨励金 41,100千円

- ・過去 3 年間に障害者の雇用実績がなく常時雇用する労働者 300 人以下の企業に 1 事業主あたり最大 60 万円を支給

「愛知・つながりプラン2028」に基づき、 特別支援教育を充実します

予算額 7,333,132千円
(外に債務負担行為 9,490,707千円)

2024年2月に策定した「第3期愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン2028）」に基づき、特別支援学校の整備を進めるとともに、児童生徒に対する支援体制を強化します。

- | | |
|---|---|
| <p>1 いなざわ特別支援学校整備費 1,745,753千円
教室不足を解消するため、いなざわ特別支援学校敷地内への校舎増築に向けた建設工事を行います。
○ 供用開始予定：2026年4月</p> <p>2 小牧特別支援学校整備費 3,292,315千円
(外に債務負担行為 215,583千円)
一宮東特別支援学校の教室不足を解消するため、小牧特別支援学校敷地内への校舎増築に向けた建設工事等を行います。
○ 供用開始予定：2026年4月</p> <p>3 名古屋東部地区新設特別支援学校建設費 800,791千円
(外に債務負担行為 4,286,653千円)
港特別支援学校の長時間通学を解消するため、名古屋東部地区への肢体不自由特別支援学校新設に向けた建設工事等を行います。
○ 場 所：天白区菅田地内(天白学校体育センター敷地内)
○ 開校予定：2027年4月</p> <p>4 西三河北部地区新設特別支援学校建設費 713,461千円
(外に債務負担行為 4,988,471千円)
三好特別支援学校の教室不足を解消するため、西三河北部地区への知的障害特別支援学校新設に向けた建設工事を行います。
○ 場 所：豊田市亀首町地内
○ 開校予定：2027年4月</p> | <p>5 スクールバスの増車 127,736千円
バスを利用する幼児児童生徒の長時間通学の緩和と乗車待機者解消のため、特別支援学校のバスを8台増車します。</p> <p>6 就労支援推進事業費 15,008千円
○ 就労アドバイザーの配置 5人</p> <p>7 心豊かな児童生徒育成推進事業費 14,530千円
○ スクールカウンセラーの配置 5人
○ スクールソーシャルワーカーの配置 2人</p> <p>8 医療的ケア実施体制の充実 623,538千円
○ 看護師の配置
医療的ケアが必要となる児童生徒に適切なケアを行うため、県立学校の看護師を増員します。
・ 常勤看護師の配置 17人
・ 非常勤看護師の配置 118人 → 120人
○ 通学支援等の実施
保護者負担軽減のため、全ての肢体不自由特別支援学校で、通学や校外学習の際に看護師が付添い、医療的ケアを実施する取組を進めます。</p> |
|---|---|

愛知から障害者スポーツを盛り上げます

予算額 19,534千円

愛知から障害者スポーツを盛り上げ、スポーツを活かした共生社会をリードしていくため、交流促進や人材育成等の取組を進めるとともに、アジアパラ競技大会の開催機運醸成を図ります。

【土台づくり】

○あいち障害者スポーツ連絡協議会の開催

県、パラアスリート、スポーツ団体、経済団体、医療関係者等による連携体制を構築

【普及啓発】

○ポータルサイト「aispo!Do!」の運営

スポーツ大会やイベントの情報、スポーツ施設のバリアフリー情報などを広く発信・共有

【交流促進】

○地域で障害者も参加できるスポーツプログラムの実施

総合型地域スポーツクラブを活用して健常者と障害者の交流を促進

○体験・交流イベント「あいちパラスポPARK」の開催

障害者スポーツの普及や障害への理解促進を目的として誰もがスポーツを通じて交流を深められるイベントを開催

【機会創出】

○地域や医療機関でのスポーツ体験機会の創出

ボッチャやフライングディスク等の競技用具を総合型地域スポーツクラブやリハビリ施設等へ貸出

【人材育成】

○スポーツ指導者への障害者スポーツ勉強会・体験会の実施

地域における障害者スポーツ推進のキーパーソンを育成

○あいちパラスポーツサポーターの育成

障害者スポーツを理解し応援するサポーターを育成し認定

○若手指導者の確保

障害者スポーツ指導員の資格を取得予定の学生等を対象に事例発表会や指導体験会等を実施

○指導者のリ・スタート支援

活動を再開しようとする障害者スポーツ指導員等を対象に学びなおしの場としてセミナー等を実施